

令和4年度 徳島大学大学院 創成科学研究科修士課程

地域創成専攻 I期

入学試験問題

受験科目名：文化人類学

【注意事項】

- 1 係員の指示があるまで問題冊子を開いてはならない。
- 2 試験問題は、表紙（この紙）1枚、問題・解答用紙7枚の、合計8枚である。
- 3 解答開始後、各問題・解答用紙の「受験番号」欄に受験番号をはっきりと記入すること。
- 4 問題は合計2問である。
- 5 解答は指定された解答欄に記入すること。
- 6 配布した用紙はすべて回収する。

文化人類学 その1

問題1. 下の文中の(①)～(②)にあてはまる言葉をキーワードから選び、解答欄に記入しなさい
(各6点)。

【文化相対主義とフィールドワーク】

「自分たちの価値や見解において問われていないことがらを問い直し、他者に対する理解と対話をめざす」ために、判断を差し控える態度を(①)という。たとえばイルカを狩り、それを食べるという習慣に直面し、それを「残酷だ・許せない」と感じた場合を想定してほしい。その時に、「なぜ自分はそう感じるのか」、「なぜ自分にとって嫌悪すべきものが、他者にとって常識になるのか」という考え方にたち、他文化の価値観や行為に対する自文化の側からの一方的な判断を保留する態度が(①)である。そうではなく、「残酷に思えた」という理由を真剣に考えずに、自文化の価値観や行為を無反省に正当化したり、それをもとに他文化を批判したり軽視したりすることを(②)という。

この概念は20世紀前半に、ドイツ出身のアメリカの人類学者(③)により提唱された。当時の人類学においては、「黒色人種は白色人種とは異なる進化の系統をたどってきた別種である。それゆえ、黒色人種が白色人種のように進化する可能性は無い」という考え方が支配的であった。この考え方は欧米の文化と同等に価値のある文化が複数存在するという可能性を否定するものだった。それゆえ、複数の「異文化」が存在し、一つ一つの文化は同等の価値をもつという考え方による「異文化」の発見は、この当時には革新的な世界観であった。

同時に(③)は、わたしたちもまた文化に拘束された存在であり、自分が生まれ育った文化的な価値観から離れた中立的なものの見方は不可能であることを意識する必要性についても言及している。これを(④)という。わたしたちが(④)をはずし、神の視点で物事を見ることが出来ない以上、「他文化の価値観や行為に対する一方的な判断を停止」し、他文化との共存の方途を探っていくことは容易くはない。(①)とは、耳当たりのいいコスモポリタニズムではなく、だれもが自文化の拘束から逃れることはできないことを自覚したうえで、「寛容」の精神でもって「他者」の存在を認め、共存の方途を探ろうとする態度である。

19世紀には、現地で生活する宣教師や調査スタッフによる資料をもとに、人類の文化や歴史を検討する「肘掛け椅子の民族学」が主流であった。人類学的な(⑤)にもとづく世界初の民族誌は、ニューギニアのトロブリアンド諸島を対象にした『西太平洋の遠洋航海

文化人類学 その2

者((⑥), 1922)』である。佐藤(2006)によれば(⑦)にもとづく(⑤)の特徴は、調査対象の人びとの生活に密着して、行動と体験をともにするなかで相手の暗黙のルール・考え方・感情などを知り、それと自分の考え方を比較することにより(⑧)とでもいうべき視点を獲得することにあるという。(⑧)の視点をとることで、自文化における暮らしのなかでは当たり前にも思われて、気づくことがなかったさまざまな「問題」に気づき、その様相を明らかにしていくことが可能となる。これは「(⑨)」作業である。すなわち(⑤)とは、(⑦)による異文化体験につきものの(⑩)を学問的な問いに昇華していく作業であるともいえる。

この時に、(①)的な観点が必要となってくるが、わたしたちが(④)をはずすことができない以上、(⑤)とは、「異文化」の「裸の現実」や「本当の姿」を明らかにすることにはなり得ない。(⑤)とは、異文化体験を通じて、「(⑪)」とは何かについて自省的に考える作業である。

佐藤郁也, 2006, 『フィールドワーク: 書を持って街へ出よう』新曜社を一部改変

【親子概念の多様性と民俗生殖理論】

ピーター・リヴィエール(1985)は、生殖補助医療技術がもたらした親子関係の錯綜についてもっと広い視野から考えるべきであり、それには社会人類学が役立つと述べている。リヴィエールは、生殖概念や親子概念に関するさまざまな民族誌的事例を引用し、すべての親子関係は(⑪)的に構築されたものであること、したがって、私たちが当たり前だと考えている親子関係もまた(⑪)に縛られたものであることを明らかにした。

たとえば欧米では、(⑫)(子と生物学的なつながりがあると考えられる者)と(⑬)(社会で親と認められる者)は一致するべきとされている。何らかの事情で(⑫)と(⑬)が一致しない場合は、(⑫)が「自然な親」であり、「実の親」であるとする観念が非常に強い。そのため、夫以外の男性の精子を用いる「非配偶者間人工授精(AID)」を行った場合、「誰を父とするか」という問題が生じる。AIDでは、夫婦もドナー(精子提供者)も、夫を父とすることを望む。そのため欧米社会の多くは、AIDによる新たな親子関係を受け入れるにあたって、夫婦を法的な親とすることを認め、ドナー情報は原則として子には非公開とすることにしていた。だが、今度は子どもの「実の親」を知る権利が問題とされるようになったため、子どもがドナー情報にアクセスできるよう法律を制定した国、あるいは制定を検討している国が増えている。

文化人類学 その3

映画「人生、サイコー（2013）」の主人公デヴィットは、過去に行った精子提供により、自分が533人の子どもの父親であることを知る。そして142人の子ども達から身元開示の裁判を起こされてしまう。はじめは彼らの訴えを完全に無視していたデヴィッドだが、徐々に気になりだし、身分を隠しながら彼らに会っていく。このように親子関係が「問題」としてとられるのは、私たちが、私たちの社会で（⑪）的に構築された（⑭）概念や親子概念を（⑮）なものだと考えているからである。だが世界の様々な社会に関する民族誌をひもとけば、（⑭）概念や親子概念がいかに多様であるかということがわかる。すなわち、私たちが（⑮）であると考え（⑭）概念や親子概念も、そのうちの1つにすぎない。たとえばボリビア北部の先住民エセエハ族は、子どもは複数回にわたる性交によって女性の胎内に蓄積された男性の精液でできると考え、女性が複数の男性と性交して子どもが生まれた場合、性交した男性すべてをその子どもの「父」とする。また、ネパールのネワール族の（⑭）概念では、男性の精液と女性の血はまざり合うが、血は胎児に養分を与えるだけであり、胎児は精液だけでつくられると考えられている。逆にニューギニアのトロブリアンド諸島の人びとにとっては、（⑭）の過程は霊的世界と女性との関係として理解されている。それゆえ男性の精液は（⑭）に関係しないと考えられている。以上の例からわかるように、（⑭）に関する概念は多様であるが、その一方で多くの（⑭）概念の共通項として、精液や血といった人体の物質が、文化的象徴として頻繁に用いられている。

【人間の身体や身体経験の多様性】

人間の身体には、その社会によって与えられた意味がある。男性の性器を持って生まれれば（⑯）、女性の性器を持って生まれれば（⑰）の意味が与えられている。筋肉質であることを（⑯）とするのも、（⑪）による意味づけの作用である。このように（⑪）によって決められている身体の意味は、多義的でありうる。

たとえばインドの（⑱）は男性として生まれるが、男性であるという誕生以来の性を去勢によって放棄するとともに、出家してヒンドゥー女神の帰依者として生きる人びとである。（⑱）は女神の寺院で働き、神と一般社会の人々とを繋ぐ役割を果たしている。寺院での活動を終えて家に帰った後は、親密な仲にある男性に対しては現世に生きる女性のようなふるまいをし、擬似的な親族関係を結んでいる地元の住民に対しては姉妹あるいは兄弟のようにふるまうことがある。このように（⑱）の身体は、「男性・女性」とい

文化人類学 その4

った固定された意味ではなく、状況に応じた多様な意味をもつ。このような生き方はインドの一般社会のなかでは異質であるが、人間の性別を「男性・女性」という2つに分ける理論（ジェンダーの二元論）や、男女の対からなるインドの一般社会における家族・親族の秩序を否定するものでもない。（⑬）はヒンドゥー女神の使徒として出家することを通じて一般社会の規範の外部に居場所を得ている。むしろインドの主要な宗教のひとつであるヒンドゥー女神の使徒となることで、外部から一般社会の秩序を支えているとも言える。（⑬）は（⑭）の1つのあり方である。（⑭）とは、自分の（⑮）に強い違和感を持ち、性の転換を望むあるいは転換した人たちである。一方、自分の身体への嫌悪はあるものの、（⑮）を変えずに、男性であれば女性の、女性であれば男性の性別役割や服装を志向する人たちをトランスジェンダーという。近代医療のなかでは、（⑭）やトランスジェンダーは（⑮）と自分が自覚する性（性自認）が同じでないという意味から「性同一性障害」と呼ばれている。しかし、（⑬）の例が示すように、インドの一般社会の規範の外部では性の一致、不一致は問題にならない。女神信仰の世界で生きるとも、1つの身体が関係性に応じて多様な意味をもつことも、当事者にとってはまったく正常な自己のあり方であり、何の異常性もみとめていない。

波平恵美子(編),2011,『文化人類学[カレッジ版]第3版』,医学書院を一部改変

【キーワード】

内なる異人、フランツ・ボアズ、クリフォード・ギアツ、民族誌、文化人類学、プロニスワフ・マリノフスキー、文化の複数性と対等性、当たり前を対象化する、2次資料、フィールドワーク、自民族中心主義、ルポルタージュ、異文化理解、1次資料、文化相対主義、構造主義、カルチャーギャップ、認識人類学、クロード・レヴィ=ストロース、悲しき熱帯、参与観察、サーベイ、文化メガネ、文化、生物学的親、社会的親、生殖、親族、結婚、普遍的、個別的、男性らしさ、女性らしさ、ゲイ、クィア、ヒジュラ、タラヴァード、レヴィレート、トランスセクシュアル、トランスジェンダー、トランスナショナリティ、生物学的性、社会・文化的性

受験番号	
------	--

徳島大学大学院創成科学研究科修士課程地域創生専攻

文化人類学 その5

問題 2. 以下の設問 1～5 から 1 問を選択して解答しなさい。解答用紙に選択した設問番号を記入しなさい(80 点)。

1. 過疎・高齢化といった日本では社会問題になっている人口減少に関する文化人類学的な国際比較研究について、あなたが考えるところを論じなさい。
2. 教育や学習に関する文化人類学的な研究について、あなたが考えるところを論じなさい。
3. 遊牧・焼畑農耕・狩猟採集といった移動性が高い生業を営んできた社会の変容にかかわる諸問題について、具体例をあげて論じなさい。
4. 東アジア地域における在来農業の保全をめぐる近年の展開について、具体例をあげて論じなさい。
5. グローバルな人の移動に関する文化人類学的な研究について、あなたが考えるところを論じなさい。

受験番号	
------	--

徳島大学大学院創成科学研究科修士課程地域創生専攻
文化人類学 その6

問題1.

① ()、 ② ()、 ③ ()

④ ()、 ⑤ ()、 ⑥ ()

⑦ ()、 ⑧ ()、 ⑨ ()

⑩ ()、 ⑪ ()、 ⑫ ()

⑬ ()、 ⑭ ()、 ⑮ ()

⑯ ()、 ⑰ ()、 ⑱ ()

⑲ ()、 ⑳ ()

小計	
----	--

受験番号	
------	--

徳島大学大学院創成科学研究科修士課程地域創成専攻
文化人類学 その7

問題 2.

小計	
----	--

合計	
----	--